

「Forward to 1985 energy life」運動に寄せて

良い施主と良い建築家の出会いは、すてきな家を出現させます。例えば、太陽の方位に合わせた部屋をレイアウトしたり、真にどう住みたいかのプログラムがしっかりしていて、建築的な解決もきちんとしていることが大切です。

つまり全てが説明できる家であることが求められます。そして完成すると、その家に介在した設計や技術は寡黙で、建築プロセスの痕跡がどこにもないような、すばらしく快適で楽しい家にしか見えないことが重要です。

「1985」運動は、住宅メディアや若手建築家、さらに工務店が中心になり、まず、住まい手の暮らしの中でエネルギー問題を捉え、まず身近な視点から暮らしや家づくりの全体を捉え、変えることだと聞き及んでいます。

この運動を大きな輪になるように広げていくためには、建築の可能性を信じ、探求心を持って調査や日常の活動に当たり、多くの知恵の集積を担うことが必要です。

私たちは社会からその解答を求められています。「1985」運動の取組みは、将来のエネルギー消費のあるべき姿を創造する上で、極めて重要であり、今後、さらに運動の輪を広げてほしいと思います。

平成 23 年 8 月 25 日

建築家／東京芸術大学 美術学部建築科 教授

元倉真琴